薬学英語としてのリスニングの授業

加　藤　隆　治

1　薬学英語としてのリスニング
2　授業の内容
(1)　教材選定
(2)　具体的な授業の内容
3　学生からの授業評価
(1)　教材の評価
(2)　授業内容の評価
4　今後への展望（次年度へ向けて）

1　薬学英語としてのリスニング

現在、北海道薬科大学では従来からある教養英語という枠を越えて英語教育を行うため、「薬学英語」という教科に衣替えしている。最終的に、英語で文献を読むことが出来る薬剤師の育成を主眼に、薬学を学ぶ学生に必要な英語を体系的に教えることを目標としている。単に英語を教えるというのではなく、薬学を学ぶ者としての意欲を持って他言語をマスターすることにより、真に国際化を目指す学生を育て、さらに医療に貢献する薬剤師を育成するという大学の意欲の現れである。

薬学英語の授業展開

薬学英語Ⅰ（1年次前期）文法、講読（ヘルス・サイエンス関連）
（1時間授業週2回計30講）
薬学英語Ⅱ（1年次後期）英語表現法
（1時間授業週1回計15講）

薬学英語III（1年次後期）リスニング
（1時間授業週1回計15講）
薬学英語IV（2年次前期）化学、人体
（1時間授業週2回計30講）
薬学英語V（2年次後期）生物、人体
（1時間授業週2回計30講）
薬学英語VI（3年次前期）専門文献講読
（1時間授業週1回計15講）
薬学英語VII（3年次後期）専門文献講読
（1時間授業週1回計15講）

1年前期の薬学英語Iでは文法と講読を行う。文法の授業では、将来読むことになる英語文献を読みこなすにあたって必要と思われる文法を再確認、及び定着を計る。講読では、その文法を用いて専門的な用語が多少入ってくるヘルスサイエンス関連のテキストでその文法を用いて読みこなす。

1年後期の薬学英語II英語表現法では、前期で習った文法や語彙を用いての英作文をする。

同様に1年後期の薬学英語IIIでこのリスニングを行った。

2年生の薬学英語IVとVではより専門的な内容のテキストを用いての講読である。前期のIVでは化学、後期のVでは生物と、3年次のより専門性高い文献を読むためのつなぎとして全体的な英語のレベルアップを計ることを目標にしている。3年生で開講されるVIとVIIは完全に専門的な内容の文献を読む。このようにして、専門的な文献を英語で読みこなすための実力をつけるべく、一年生から3年生まで体系的にカリキュラムがくまれた薬学英語という科目が設定されている。

薬学英語IIIのリスニングは、その薬学英語教育の一環として、設けられている。1年次の前期では、英語の文献を読みこなすために必要な文法を学び、それを用いて薬学英語の入門としてのヘルス・サイエンス関連の英語を講読した。

後期に開講される英作文とリスニングの授業は、その前期に学んだ文法と講読の授業を補完する役割を担っている教科である。共に前期で学んだ文法や講読のテクニックを用いて英語を書き、また英語を耳から理解し、その定着を計る。また、将来的に必要になる可能性が高い会話の能力を身につけるための入門・導入の役割、という目標を設定していた。

2　授業内容

(1)　教材選定

初年度ということもあり、学生の英語レベルや興味の対象など不明な部分が多く全ての面で手探りの出発になった。教材設定に際しては以下のことに留意した。学生が興味をつなげるような内容でなくてはならない。しかし、使用される英語のレベルが高すぎると理解不能な学生は興味を失う可能性がある。従って、分かりやすい英語を使用していながらも楽しめる内容でなくてはならない。また、本来は薬学的な内容に合致するものが好ましいが、実際にはそういうソフトは少なく、かつ英語を専門としていない学生には難しい内容になりがちである。

このような点を考慮すると、難しい専門的な内容のビデオよりは、映画またはテレビ・ドラマのビデオの使用が条件にかなっていると言える。注意すべき点は、あまり難しくない英語でかつ楽しめる内容というビデオの選定にある。今回は *It Takes Two*（Warner Brothers, 1995）というタイトルのアメリカ映画（約 101 分）を使用した。主演は、NHK で放映されている「フルハウス」にミシェル役で出演しているメアリー・ケイトとアシュレーの双子の姉妹である。基本的に子供向けの映画だが、楽しめる映像や会話が多く学生の興味を引きつけられる、また、俗語の使用も少なく一般的な英語のリスニングには適していると考えた。また、米国製のビデオなので日本語字幕が出ないという点も選んだ理由の一つだった。日本製の吹き替え版が存在しているはずだが、入手できなかった点は悔やまれる。

(2) 具体的な授業の内容

授業は、せりふの聞き取りを中心に行った。映画のせりふを書き起こし、数カ所空欄ままにしておいたプリントを学生に配布しておき、ビデオを見ながら(聞きながら)空欄補充をするというのが基本的な授業の形態である。また予習のためにある程度難しいと思われる単語や熟語には意味をつけたプリントを配ったり、上記のせりふのプリントにアンダーラインを引いて内容理解に重要なポイントを予習させるようにした。

初回の授業では、英語の発音のポイント、日本語とは異なる2点をリスニングのイントロダクションとして紹介した。　英単語の発音はストレスが必ずある、日本語にはないが、英語には子音の発音ある、という2点を強調した。特に子音の発音としては、〝psst〟という単語をとりあげた。ビデオ「12モンキーズ」(ブラッド・ピット主演) の冒頭部分で、ブルース・ウィリスが〝Psst〟と隣の人物に話しかける場面を見せた。

聞き取りをさせる空欄は、口語英語で使用頻度の高いフレーズ・熟語・単語、または英語に特徴的な発音が現れている部分、を選ぶポイントにした。例えば、映画の冒頭部分では、口語英語でよく使用される省略形に的を絞った。以下は映画の冒頭部分、主人公の女の子 Amanda と彼女のいる孤児院の先生 Diane の会話である。この分量で約授業1回分である。一つの空欄に対して、5、6回 (難しい単語・聴きづらい単語ではそれ以上の回数) 学生に聞かせ、聞き取りをした。内容が分かりづらい場合にはあらかじめポイントを絞って予習させておいたり、単語のプリントを配布したりした。内容を説明しながら進むので一回の授業ではこれくらいの分量が限度だろう。

Boy (1)：Well, fans, it's the bottom of the ninth, and the bases are loaded. And guess who the Orphans have at bat.

Girl (1)：That's right.　It's the home-run queen herself—the belter from the shelter, miss—

Diane：Amanda Lemmon!

Amanda：What?

Diane：I'm (　　) kill you.　Didn't I tell you not to play ball in that dress.

Amanda：Aw, come on, Diane.　I (　　) gonna hurt it.

Diane：It's time for your interview, and drop the bat.　Let's go.

Amanda：Just let me smash this ball downtown.　O. K.?

Diane：All right.　You got 10 seconds.　Otherwise the game is gonna be called on account of bloodshed.

Amanda：Come on, Frankie, I (　　) go to Staten Island.

Frankie：Staten Island?　What about camp?　You'll miss the bus.

Amanda：I (　　), either.　It's just a look-see.

Boy (1)：They're not trying to place you with the Butkises, are they?

Amanda：So what if they are?

Carmen：You have ever met those people?　That family collects kids.　They'll take anybody.

Frankie：Even the rejects like you.

Amanda：Shut up, Frankie.　At least I got an interview.

Boy (1)：And Amanda Butkis steps to the plate.

それぞれの空欄には、gonna、ain't、gotta、won't が入る。同時にこの 4 種類以外のよく使用される省略形もまとめて説明した。これ以外に、発音を重視した空欄としては、"not exactly" "check it out" などがある。

下の例は Diane ともう一人の主人公の女の子 Alyssa との会話である。それぞれの空欄には gross、remind、of、Don't、make、fun、tough、guy が入る。どれも、難しくはない単語だが、実際の会話のスピードには着いてゆけないのか、出来ていない学生が多かったのは事実である。

Diane：A frog, huh?　Well, you know what?　You should've kissed it.　Might've turned out to be prince charming.

Alyssa : Ew, ( ).

Diane : Not for you, for me.

Alyssa : You'd kiss a frog?

Diane : No. Toads are my specialty. Big old ugly suckers with tongues like this...

Alyssa : It is not.

Diane : It is too. How else do you think I'm gonna catch a guy?

Alyssa : I don't know.

Diane : Huh? Huh?

Alyssa : O. K.

Diane : Aha, there's that smile. I think it went all the way up to your eyes.

Alyssa : You ( ) me ( ) someone.

Diane : I do? Who?

Alyssa : Someone I've never met.

Diane : How, if you've never met her?

Alyssa : Sometimes when I dream, I think I see her.

Diane : You know, you've been acting just a little bit weirdo today, kiddo. I think maybe it's all this fresh air.

Alyssa : ( ) ( ) ( ).

Diane : Sorry. It's just that usually you're such a ( ) ( ).

Alyssa : Don't tell anyone, O. K.?

Diane : Scout's honor.

Alyssa : I mean, after all, I wouldn't want to spoil my reputation none.

Diane : None. I've got an idea. Let's go spy on the boys.

3　学生からの授業評価

(1)　教材の評価

質問(4)では、初めてこのようなリスニングの授業を経験した学生も多かったようで、1の「聞き取りは出来なかったが楽しかった」(116人)、8の「総じて楽しい授業であった」(106人)という答えが群を抜いている。まずもって、「学生の興味を引きつける」という点で *It Takes Two* という教材の選定に大きな間違いはなかったと言える。また質問(7)の①で「面白い内容だったか」という問いでは、1の「大いにそう思う」という答えが103人と圧倒的に多い。2の「多少そう思う」という答えと合わせると164人となり学生の大半がビデオの内容には満足していたと考えていいだろう。今回のビデオは「薬学」という観点からは離れるかもしれないが、学生の興味・動機付けという点ではこういう内容のビデオは適していると言える。学生の「ビデオはリスニングが苦手でもみてるだけでわかり、楽しいものを選ぶべきだと思う。そうるすと英語に関心を持ち、学ぼうとする気が起こりそうだ」という意見は傾聴に値する。

ただし、質問(7)の②で英語のレベルに関する質問では、1の「難しかった」(89人）が2の「ちょうど良かった」(90人）に次いで多かった。さらに質問(4)の答え1「聞き取りは出来なかったが楽しかった」が116人だったということを考えると、口語英語をあまり勉強してきてはいないと考えられる学生にとっては、難しいレベルの英語だったと考えられる。加えて、ビデオが米国製なので日本語字幕も吹き替えもないため、いきなり「生の」英語にさらされた学生に戸惑いがあったようである。「字幕に英語があれば少しは内容が分かるが、何もないと何を言っていたのか分からない時がよくある」とか「くだけた日常会話はいきなりだとなれるまでに時間がかかり、結局は映像だけ楽しむものになってしまったと思う」という学生の感想は、正直なところだろう。

確かに、週1時間、1クラス50人という授業の制約があり、英語専攻の学生ではないため学生へ内容の理解をさせるということは難しいと言える。内容理

解に時間をかけ過ぎると、肝心のリスニングの時間が減ってしまうからである。とは言え、話されている内容に関して、教師側が学生に理解させる工夫が必要だと考えられる。この問題に対する今年度の改善点は、先に予習用のプリントを毎週配布することで解消を目指した。内容理解に必要不可欠な単語を予習させるということだけでなく、必要な構文、熟語等をいくつかピックアップして調べさせ、聞き取りをする前に解説しておく。さらに、ビデオを先に日本語で観てから英語で聞き取りをするという方法を採っているので、内容が全く分からずにとまどうということもないようである。

(2) 授業内容の評価

質問(4)で5の「いい時間つぶしであった」という答えが11人と少なく、6の「英語の授業を受けているという気になれた」、7の「英語の勉強になった」がそれぞれ47人，66人と多かった。この点を考慮すると、(授業で習ったことが学生に定着したかどうかは別として）内容が薬学英語からは離れるかもしれないが、少なくとも「英語らしい英語の授業」を受けている、そして英語の勉強に役に立ったと考えていることが分かる。

しかし、質問(2)の「この授業を受けてみてリスニングの能力がついたか？」という質問に対して、1の「大いにそう思う」はわずか4人に過ぎず、「多少そう思う」の119人、「どちらでもない」の40人、「そうは思わない」の17人よりも少なかったというのは問題だろう。「多少そう思う」が119人だったということは、半数程度の学生が「リスニングが出来るようになった」という達成感があったと考えられるため評価出来るが、1の「大いにそう思う」はわずか4人に過ぎないということは、使用されている英語のレベルが高かった、内容理解ができないうちに先に進むという授業、など様々な理由が考えられる。同じビデオを単に始めから観てせりふを聞き取るという方法では限界がり、授業の進め方に改善の余地があると言える。

4　今後への展望

質問(1)で「リスニングは薬学英語を学ぶ上で必要であると思う」という核心を突く質問に対しては、意外にも「大いにそう思う」の59人、「多少そう思う」の94人が群を抜いて多く、「そうは思わない」の8人、「無意味である」の1人を引き離している。この結果を見ると、リスニングの授業は、教員が考えている以上に学生達が必要だと感じていると言える。これは予想外の結果ではあったが、理由を探っていくと納得のいくものである。

具体的な理由としては、「実際に聞いてみるとただ読むだけよりも身に付くと思うから」とか「英語は文章で読むのと聞くのでは全然違って、文章で読めることはもちろん聞くことも必要である」、「英語は文法で習うだけではなく実際に聞いて話して身に付く物だと思うから」など、教員がこの授業に対して設定している目標と同じ視点に立った意見があった。さらには、「将来、薬剤師として外国人と話す機会があると思うから」とか、「今後、薬局・病院などの様々な場所で英語は必要になってくると思うから」と薬剤師として英会話の必要性を感じてもいる。また、薬剤師という枠を越えて国際化という流れの中で、社会に出たときに国際語としての英語を使いこなせる必要性を感じているという積極的な意見（「英語は国際語。薬学に関して国際的知識をつけるなら listening、reading、writing が必要であると思う」）もいくつかあった。従って、この薬学英語としてのリスニングは学生のニーズにかなった授業と言うことが可能である。

しかし、質問(1)で「そうは思わない」または「無意味である」と答えた学生の理由は考慮すべき問題を含んでいる。例えば、「国内にいるのであれば必要ない」とか、「薬局や病院に外国人はめったに来ないと思う」というように、英語の必要性を全くといっていいほど認めていないものがあった。また、「とりあえず英語で文献が読めればいいと思う」というように英語を読む能力と聞く能力に関連性を見いだせない学生もいた。これはやはり、授業の始まりに、何故薬

学英語のなかでリスニングの授業が必要なのか、より明確で分かりやすい動機付けが必要だと考えられる。

また、質問(3)で「このリスニングの授業はどのような形態がいいか？」という質問に対して、それぞれ1の「少人数制のクラスにする」は71人、2の「授業時間を増やす」は59人、3の「外国人教員が担当する」は55人となっている。これは、取りも直さず英語を耳から学ぶための授業環境の改善を求めていると言っていいだろう。「円形に机を配置する」という意見は少人数制のクラスを求め、「週一回では足りない。もっと時間をかけてじっくりやるべきだ」という直接的な授業時間数の増加を求める声や、「英会話をするのがよいと思う」という英会話派の声もあった。

質問(1)や(3)の答えや理由を分析すると、学生の求めている教科は、文献を読みこなす際にその助けとなるようなリスニング（耳から学ぶ英語）と、薬剤師としての必要な英会話の能力の習得に集約されると言っていい。事実、質問(6)で「リスニング以外の授業にするとすれば、どのような内容の授業がいいか？」という問いには、英会話が130人と、他のリーディングの36人、英作文の10人、文法の10人を大きく引き離している。このアンケートで一番最後の「好きな感想を」という欄で「英語を話せるよーになりたーい!!」という感想は学生の気持ちを代弁していると言えるだろう。ただし、50人のクラスで週1時間、計15講という制約を考えると、会話の授業を成立させるための相応の工夫がリスニングの授業以上に必要だろう。今現在では、耳から英語を学び既に学んだことの定着を計り、さらに会話への導入となるようなリスニングの授業というのがベストの選択と言えそうだ。幸いなことに、授業の進め方そのものには「このままでよい」という意見が多かった。リスニングの授業として学生から評価はあると言える。

ただし、リスニングの授業を行う際にいくつかの改善が必要と言える。例えば、「今の授業の進め方でよい」という意見が多かったが、「授業のスピーディー」な展開を求める意見もあった。授業では、学生の反応と聞き取りの理解度を把握するために、いくつかの空欄の聞き取りをさせた後で、机間巡視を行ってい

た。その間学生には空欄の答えを学生同士で相談させていた。その時間が学生には無駄に思えたようである。確かに50人程度の人数が居るクラスで机間巡視を数回行えばかなり時間がかかってしまうのは事実である。しかし、やはり上記のような理由で机間巡視も必要である。いかに学生に無駄な時間を思わせないようにするか、ということを考える必要がある。

またビデオを見るだけの授業ではであまりにも「受け身である」と感じている学生もいた。つまり、会話の授業により近い形態を望んでいると言える。確かに、学生に何らかの形で授業中に発声させる、ということは必要である。「自分たちも声を出す」「学生のリアクションを求める授業にした方がいい」という意見は、学生自らが能動的な授業への参加を望んでいる声であろう。今後、受け身の授業に慣れ、なかなか声を出さない（発表をしない）学生達から、いかにして積極的な授業への参加態度を引き出すかがポイントになる。

そして、ビデオをもっと多くみたい、という声もあった。「今後どのような内容のビデオにすべきか」という質問(7)の③に対して、「複数のビデオを使用する(映画など)」が68人、「複数のビデオを使用する（薬学に関連したビデオも含む)」というのが36人で、多かった。これは、ビデオの内容が面白いとは感じてはいるが、もっと様々な英語を聞いてみたいという意見を表していると考えられる。同じ質問で、学生は「より娯楽性の強いビデオ」で「薬学英語という内容」からは離れた内容のビデオを見たいと感じていることが分かる。「授業は楽しかった。リスニングが身に付いたかという点に対しては疑問が残るが、この先自分で身につけたいと思う。」という学生の意見のように、学生から積極的な態度を引き出しうる、英語好きにするような内容が求められている。

しかし、やはり一貫した薬学英語の中でのリスニングという授業なのでより薬学的な内容を含むビデオの使用も必要と言える。ただし、いきなりそういう内容のビデオでは、学生にとって内容把握に時間がかかる上に使用される英語のレベルも高く成らざるを得ない。学生の拒否反応を誘発しないようなレベルにする必要がある。従って、複数のビデオを使用する、段階的にレベルを上げていく、ということを考えた。今年度は3段階のレベルアップを目指し、3種

類のビデオを使用している。リスニングへの導入という段階、薬学的な内容がはいった段階、最終的に専門的な内容の段階へとレベルをかえるように、ビデオを選定している。学生に推薦するテレビ、映画等をアンケートで聞いたところ、NHK で放映しているフルハウス、ER という意見があり今年度はその二つを採用している。

今後は、コンピュータールームを使用しての授業や、学生が好きな時間に自習（発音の練習など）が出来るようなシステムを導入することが将来的な理想である。学生自らが自習の時間を持つことが出来れば、週１時間という少ない授業時間を補うことが可能になる。さらには自ら積極的に関わることになるので学生と英語の距離が縮まるだろう。そのようなソフトが開発されること、及びそのようなソフトが使用できる環境が整うことを期待したい。また、この薬学英語は始まったばかりである。継続して調査を続けながら、より薬学英語という理想に近づきつつ、「英語を好きな学生」を一人でも生み出せるような授業を目指す必要があるだろう。

薬学英語Ⅴ（リスニング）'98 年度　アンケート

注　意　事　項

1　番号に○を付けて下さい

2　指定がない限りはひとつの番号に○を付けて下さい

3　全ての質問に答えて下さい

(1)　リスニングは薬学英語を学ぶ上で必要であると思う

［1　大いにそう思う ／ 2　多少そう思う ／ 3　どちらでもない
4　そうは思わない ／ 5　無意味である］

その理由（具体的に）

クラス／解答番号	A	B	C	D	合　計
1	15	21	10	13	59
2	23	25	27	19	94
3	8	0	4	7	19
4	1	1	2	4	8
5	0	0	1	0	1
合計	47	47	44	43	
	無回答 1				

(2)　この授業を受けてみてリスニングの能力がついた

［1　大いにそう思う ／ 2　多少そう思う ／ 3　どちらでもない
4　そうは思わない］

クラス／解答番号	A	B	C	D	合　計
1	0	3	1	0	4
2	34	32	32	21	119
3	10	9	7	14	40
4	3	3	4	7	17
合計	47	47	44	42	
				無回答 1	

(3) この授業（リスニングの授業）はどのような形態／やり方がいいと思いますか。

① 授業形態（複数回答可）

1．少人数制のクラスにする

2．授業時間数を増やす

3．外国人教員が担当する

4．その他［　　］

クラス／解答番号	A	B	C	D	合　計
1	22	14	19	16	71
2	12	22	14	11	59
3	17	11	10	17	55
4	4	4	10	8	26
合計	55	51	53	52	
	無回答 2	無回答 1	無回答 1	無回答 2	

② 授業の進め方についてどうのようにすべきかあなたの意見を書いて下さい。

［　　］

(4) この授業を受けての感想（複数回答可）

1．聞き取りは出来なかったが楽しかった

2．聞き取りができて楽しかった

3．自分のレベルには高すぎてつまらなかった

4．自分のレベルには低すぎてつまらなかった

5．いい時間つぶしであった

6．英語の授業を受けているという気になれた

7．英語の勉強になった

8．総じて楽しい授業であった

上記以外の感想を書いて下さい

クラス／解答番号	A	B	C	D	合　計
1	27	29	29	31	116
2	8	6	6	3	23
3	3	1	2	0	6
4	0	2	0	1	3
5	2	3	3	3	11
6	16	12	12	7	47
7	17	21	14	14	66
8	30	32	22	22	106
合計	103	106	88	88	
		無回答 2	無回答 1		

(5)　このようなリスニングの授業はこれからもあるべきだと思う

［1　大いにそう思う ／ 2　多少そう思う ／ 3　どちらでもない
4　そうは思わない ／ 5　無意味である］

クラス／解答番号	A	B	C	D	合　計
1	17	23	13	15	68
2	21	19	19	19	78
3	7	4	10	9	30
4	1	0	1	0	2
5	1	1	1	0	
合計	47	47	44	43	
	無回答 1				

(6)　もしこのようなリスニング以外の授業にするとすれば、どのような内容の授業がいいですか？

1．薬学英語Ⅰのようなリーディング

2．薬学英語Ⅱのような作文

3．文法

4．英会話

5．その他（　　）

クラス / 解答番号	A	B	C	D	合　計
1	11	8	6	11	36
2	1	4	2	3	10
3	3	2	3	2	10
4	33	34	31	32	130
5	0	0	2	0	2
合計	48	48	44	48	
	複数回答 1	複数回答 1	無回答 2	複数回答 5	
			複数回答 2		

(7)　使用したビデオについて

①　面白い内容だった

［1　大いにそう思う ／ 2　多少そう思う ／ 3　どちらでもない
4　そうは思わない］

クラス / 解答番号	A	B	C	D	合　計
1	28	30	28	22	103
2	16	13	15	17	61
3	3	2	1	4	10
4	0	2	0	0	2
合計	47	47	44	43	

②　英語のレベル

［1　難しかった ／ 2　ちょうど良かった ／ 3　易しかった］

クラス / 解答番号	A	B	C	D	合　計
1	25	16	23	25	89
2	22	30	21	17	90
3	0	1	0	1	2
合計	47	47	44	43	

③　今後どのような内容のビデオにすべきか（複数回答可）

1．より薬学英語という内容に合ったものにすべき

2．より娯楽性の強い（面白い）ものにすべき

3．複数のビデオを使用すべきである（映画などのみ）

4．複数のビデオを使用すべきである（映画と薬学に関連したビデオ）

クラス／解答番号	A	B	C	D	合　計
1	5	2	2	4	13
2	21	30	23	28	102
3	21	14	17	16	68
4	12	6	13	5	36
合計	59	52	55	53	
		無回答 2	無回答 1	無回答 1	

何かあなたの推薦するビデオ／テレビ番組等があれば教えて下さい

(　　)

(8)　なんでもいいのであなたの言いたいことを書いて下さい